夕刊　磐城新聞
五月二十一日發行
定價一ヶ月金六拾錢　郵税金五拾錢
廣告料　普通欄一行金六拾錢　特殊欄一行金九拾錢
發行所　磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

途上漫筆（十五）

小野生

（五月十九日稿）

寸善尺魔の世の中とは、これをして云ふのであらふ東都入り以來不思議にも政變來を聞くにつけ、其の信すべからざるに心を安んじたるに、十五日午後五時然かも同時刻に、首相官邸、內大臣邸、警視廳、政友會本部等には手榴彈を投じ或はピストルにて狙撃するなど、昭代にあるまじき、一大不祥事を捲き起し、政友會總裁たる犬養總理大臣の横死となり、端なくも政變と化し去つた。

其の陰謀の甚だしき、聞くものをして戰慄せしむるものがある。殊に主謀者として何れも自首したるものを檢する時、然かも陸海軍人關係將校なりと云ふに於ては政黨政治の呪咀最も極まりとも見る事が出來る

元來憲法の條章から見て政黨政治の當然行はる可きは、議論の餘地なしと雖、眞に國家を思ふ信念薄らぎ唯政權これ獲得に餓鬼たらむとする、傾向あるは政黨の何れを問はず、其の軌を一にする觀がある。

此の政權餓鬼の信念をして拋棄せざらざれば、國民の信頼すべき眞の政治は、當然望むべからざるものであつて、傳統的に踏襲した政黨史には、此黨に遺憾に感ずるもの決して尠少でない。

政友會は、其の政黨史上然かも古き歴史を有して居り、常に政權を握つて國政を變理する事屢々であつた茲に多少の黨弊が生むだ、そして更に匡正に邁あらずして、推移して來た雖ひがある。

この機會に於て、古き歴史を有するだけに、政黨政變來を聞くにつけ、其の信治の眞個の精華を發揚せしむる爲めに、過去の徑路にすべき眞の政黨政治を行ふ革新を加へて、國民の信頼可き備を作らねばならぬと思ふ。

爾に出でたるものは、爾に還るとは其れ之を言ふのであらうと思ふ、そして一日も早く混沌せる此の政情を、匡救するのが、又眞の政治家と云ふのでばなからうか。

時代警語

○死生命あり……（子夏）

死てふ觀念を明かにするに從つて生死の境を超絶して一面には斯の如くして生を樂み如何なる災害疾病も苦にせず過ごすのである。西哲の言に『死に面して大膽なる者は眞に自由の人なり』とある……

風つ子（童謡）

春山信子

吹いてら
吹いてら
凄いなあ
埃の袋をしよつてるよ
風つ子ヤーイ
何處かでたれかゞ
風つ子ヤーイ

○

あばつて
あばつて
うなつてた
鎮守の森の古樟
踏張れヤーイ
あつちへ風つ子が
踏張れヤーイ

○

駈てく
駈でく
風に遊ばれてくよ
捉まるな
ヒューと風つ子が
追ひかけた

5月22日

△北條高時自殺（元弘三）△新田義貞鎌倉に攻入る（同）△北畠顯家戰死（延元元）△江戸城西丸燒く（嘉永五）△官吏減俸案閣議で愈々決定、月俸百圓以上のものに六月一日から實施△日清製粉鶴見工場爆發出火し多數の死傷者を出す△マルトモホールに吉田四郎氏を中心として飛行機座談會開催（昭和六）

社會の今日

○

鈴に似る――と云つて未だに當らない、この少女らの笑ひ合ふ聲

西村陽吉

講談

お蘭陀お蝶

(35)　渡邊默禪作
布施長春畫

窓のカーテンも斬り落とされ硝子細工の燭台は蹴しとんで亂離骨灰、全然狂人の部屋に這入つた樣だ。

『おゝ』

長七郎殿はボットした眼をあげて四人を視た、今夢が醒めたといつたやうなきよろりこした顏色である。

『宅兵衛、速かに歸宿の用意いたせ』

突然の命令、三人は啞然としてその姿を瞻つた。

×

恰も同じ時刻である。

大阪屋の薄雲太夫に主人や火車のお辰がこれでもかと責めつける、嚇しの矢玉も他迄張り通す意氣地の楯に受け流して、いつかな應ずる氣色のないところからお辰はその强情さ加減にあきれ、細紐で兩手を括りつけたまま奥二階の一間に押し籠めて握り飯一つ與へるでもなく根競べの窮命に我から兜を脱かせようとした情ないやら口惜しいやら涙の乾く間もなく泣き續けに此の風雨の夜を迎へてゐると誰やら自分の側へ來ていましめの紐を解く者がある。

ふつと氣が注いで顏をもたげながら、其の姿を振り向くと紛れもない五郎平の姉お玉である。

『あら、姉さまいつの間に……やんした』

薄雲はびつくりした。

と怪しいことにはお玉の總身はぴしよ濡れ眞蒼な顏をして悄然と坐つてゐる、行燈の灯は消えかゝつて又た明るく、油はジューとみゝづの音

『薄雲さん、嘸辛いことでござんしよなあ！』

素枯れて力のない聲音が いとの樣に洩れて來る、その唇は紫陽花、血走つた眼の底に怨の光りが宿つてそゝげた瞳から珠の樣な水雫が點々として灰色の頰に傳ふてゐるのと緣はるのが見るからに現世の人の面影ではない。

『私や口惜しい、此方さんと五郎平にこの樣な憂目を見せるのもみんな彼の紹庵のお馬奴がなす業面と役人の但馬奴がなす業此方さんを無体に納得させ五郎平と手を切らせることから兜を脱かせようとしたんたんたやぐい、それ故に弟は入牢の苦しみ、私は但馬の手にかゝつて最期を……』

と言ふ下からチューと啼き出した

哀音凄絶ひしと腸に泌むばかり

『えッ！姉さま、何と言はしやんす、但馬の手にかゝつたとはえ？』

薄雲は不審の眼を張つて摺り寄つた

『それも宿世の定劫一念發揮すれば諦められぬことはないけれど、殘した輪廻がほだしになつて、其の怨を晴らさないではどうあつても佛果て得ることはなりませぬ、薄雲さん私しや迷ふて居りますぞい』

偖てはと驚いたが猶解し兼ねて光も手弱に沈み行く圓行燈を側に引き寄せながら

『姉さま、異なことを……佛果だの迷ふてゐるのと緣起でもない、何をおつしやることやら、わもじには更々合點がいかぬがなア、假令どの樣な惡計畫をいたしたとて、天道さまは御照覽善に勝たれるものではおりませぬ、わもじが辛い口惜しいと辛棒して只一途に意氣地を立てぬくのもこゝの道理、何の多寡の知れた藪醫者づれ、今にきつと見返してやりませう程にそんなにきな〳〵案じしやんすな、五郎平主も追つけ身の證明が立つて……』

慰める言葉もろとも火口を開けて燈心を掻き立てやうと牌蓋へ手をかける刹那

『薄雲さん、どうぞこの怨を……』

拈華微笑

桃栗三年柿八年
果實はいつ？

◇

五十萬圓の町債を背負つて人の旅行に補助する應揚さ加減

◇

之から緩くり町
資源開發の研究

葬儀當日に死体、自動車事故發見。因緣話ち

◇

や無い箱崎上等兵に絡る實話だ

◇

雨を含んだ風。
あすはどうか、
憂鬱な今土曜日

再たしても不名譽な縣下一。斷然首位を占むる

ラヂオ

……二十二日（日曜）……

仙臺　JOHK

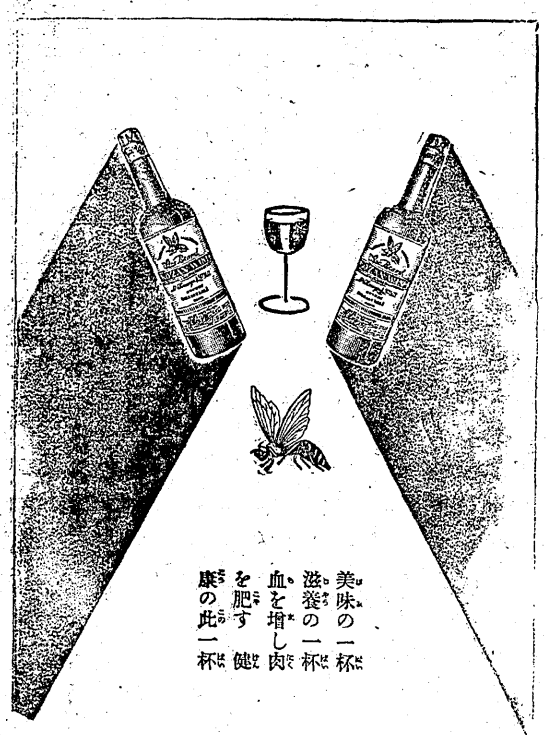
△前九、〇〇A　氣象
△九、一〇A　榮養料理（木の芽和へ……主料理　甘藷の油揚げ……副料理）榮養研究所
△九、三〇A（子供の時間）唱歌　日本教育音樂協會合唱團
△一〇、〇〇G　宗教講話（五觀偈）曹洞宗大梁山勅賜大慈禪寺住職綱木賢明
△一〇、四〇B　講演（繪畫美の種々相）同志社大學教授園頼三
△一一、一〇A　謠曲講座（謠曲の道しるべ）實演……櫻間金太郎　解説……池內信嘉
△正午A　時報　氣象
△後〇、三〇A　ニュース
△〇、五〇A　映畫物語（畔倉重四郎）
△一、四五A　新日本音樂
△六、〇〇A　運動競技（六大學野球リーグ戰試合狀況）慶明決勝戰ある場合にのみ放送
△二、二五A　浪花節（唐人お吉）木村重行（右野球放送なき場合）
△三、〇五A　獨唱とピアノ獨奏　獨唱……倉田タミイ　伴奏……石渡喜久代　川上良武（野球放送なきとき放送す）
△三、四〇A　氣象
△四、〇〇A　ニュース
△四、〇〇A　角力中繼（夏場所大角力狀況）但し野球放送なき場合
△六、〇〇B（子供の時間）お話（ヴイクトル・コーゴー）堀正旗
△六、三〇B　時事解説　來間恭
△七、三〇B　ピアノ解釋講座　獨奏……マキシムシヤピロ　解説……前田三男
△八、二〇　新內（鬼怒川物語……累身賣の段）鶴賀吉之助
△八、五〇A　連續講談（大岡政談……白子屋騒動）西尾麟慶
△九、三〇A　時報
△九、三一C　奉天より
△九、四〇A　ニュース　氣象

葬祭の造花は美しく
して他の追從を許さざる
勉強振りの
博盛堂へ
店主　松本幸松
平町極楽小路一番地
電話（呼出）五三五番

入院隨意（自炊の便あり）
外科専門
X光線科
平南町
上田醫院
病室完備
（電話一二九）

アンキロームー……1圓
（十二指腸虫病驅除必滅錠劑）
條滅（絶食の必要なし）……1圓30錢
（さなだむしおろし）
平町二丁目
堀藥局
電326番
平簡易保險相談所指定藥局

タクシーの御用命は
是非…尼子タクシーへ
親切安全第一を主義と致して居ります
電六四〇番
主任澤資之（正路改）



本日より『魚榮』自慢の大蒲燒の外に江戸一流の職人を迎へ！味と体裁の良い都壽司是非一度御試食を願ひます。
うな丼　金二十五錢　金五十錢
大蒲燒　割烹　壽司　折詰　仕出し
田町　魚榮　電話四二四番

はい病　ろくまく
必ず全治
神藥　滋惠素の靈効
本劑を服用すれば忽ち身体の活力を增進し、抵抗力を强め、病毒菌を殺滅して患部を速に癒し短日にしてメキメキと健全なる身体となる。その迅速なる事恰も目に見へるが如し。
無代進呈　家庭療養秘訣（四十ヶ條說條）
全快の手引
主治……肺結核●ろくまくえん●肺尖カタル●氣管支カタル●こうとう結核●腸結核●股腰炎●痰咳●るいれき●腺病質●ひん血症等に特効あり
効能……
（ハガキで御もうし込あれ）
悩める友よ先づ來りて御相談あれ
製藥本舗　大阪合資會社　岡本全快堂本店
福島縣石城郡平町七丁目八番地
滋惠素特約販賣店　滋惠素專賣店
阿波屋染物店向　馬目喜代

胃腸病の藥の王座を占むる純漢法藥
松前家傳靈効散　無効返金
ホントに北海道で出來た靈藥が着荷致ました。今迄のは福島市で製藥したので兎角の批評ありましたが今度のものは眞正のもので奏効確なものです服用しなくては其の眞價が判りませんから皆樣へ見本を差上ます。御遠慮なくいらして下さい！見本品でも二日間飲まれますから輕い病氣なら治つてしまひます。小兒用の靈効散も出來ました。胃腸病に苦しむ方、腦病、心臟病、痔疾の方は是非御試し下さい。クセにならず根治致ます。
定價……試用分八日分　輕症用廿日分壹圓　重症用四十五日分貳圓
五十錢
平町古鍛冶町（縣社の下）
靈効散賣販部　地方代理店　阿康藥舗
（電話四四番）

移轉披露
此度都合ニヨリ左記ニ移轉致マシタ今後共何分ノ御援助ヲ願マス。
警察署、役場、郵便局、其他諸官署、一般行政書類及書翰廣告文類
平町字四丁目郵便局裏川岸通り
根本代書事務所

エビスビール
二立ビン詰
ジヨツキ御賣いたします。
皆樣の弊店を御愛顧願上奔。
銘酒榮川サツポロ
ニニオン食料品
谷口商店
平銀治町（電二四六）

偶然とは思はれない
村葬當日の死体發見
『水中に投げ込まれた』は誤報
であつた玉川村の箱崎上等兵

昨年十月十五日通遼附近の戰ひで行方不明となり戰死者と決定して去る十二日盛大な村葬を營まれた玉川村出身歩兵上等兵箱崎光君は戰死直前之れを目擊したと云ふ支那人によつて

當時同君は兇暴なる支那兵の爲に同僚五名と共に同一の太縄に縛せられ渦巻き物凄い水中に投げ込まれた

と云ふ世にも慘虐なる情報が行はれ人をして酸鼻の念を堪へざらしめた外、其後水中の死体捜索は勇敢なる同君等の戰友によつて行はれ一ヶ月の捜査作業を斷念した旨彼地から同君の遺族近親に内報あつたとの事であつたが

同一の太縄に縛せられ渦巻き物凄い水中に投げ込まれた

と云ふ世にも慘虐なる情報が行はれ人をして酸鼻の念を堪へざらしめた外、其後

かつた事から生還を期し得ぬ捜査作業を斷念した旨彼地から同君の遺族近親に内報あつたとの事であつたが

兵の爲に同僚五名と共に同一の太縄に縛せられ渦巻き物凄い水中に投げ込まれた

と云ふ世にも慘虐なる情報が行はれ人をして酸鼻の念を堪へざらしめた外、其後

出身歩兵上等兵箱崎光君は戰死直前之れを目擊したと云ふ支那人によつて

當時同君は兇暴なる支那兵の爲に同僚五名と共に同一の太縄に縛せられ渦巻き物凄い水中に投げ込まれた

と云ふ世にも慘虐なる情報が行はれ人をして酸鼻の念を堪へざらしめた外、其後

大な村葬を營まれた玉川村出身歩兵上等兵箱崎光君は戰死直前之れを目擊したと云ふ支那人によつて

當時同君は兇暴なる支那兵の爲に同僚五名と共に同一の太縄に縛せられ渦巻き物凄い水中に投げ込まれた

と云ふ世にも慘虐なる情報が行はれ人をして酸鼻の念を堪へざらしめた外、其後

戰ひで行方不明となり戰死者と決定して去る十二日盛大な村葬を營まれた玉川村出身歩兵上等兵箱崎光君は戰死直前之れを目擊したと云ふ支那人によつて

當時同君は兇暴なる支那兵の爲に同僚五名と共に同一の太縄に縛せられ渦巻き物凄い水中に投げ込まれた

と云ふ世にも慘虐なる情報が行はれ人をして酸鼻の念を堪へざらしめた外、其後

昨年十月十五日通遼附近の戰ひで行方不明となり戰死者と決定して去る十二日盛大な村葬を營まれた玉川村出身歩兵上等兵箱崎光君は戰死直前之れを目擊したと云ふ支那人によつて

當時同君は兇暴なる支那兵の爲に同僚五名と共に同一の太縄に縛せられ渦巻き物凄い水中に投げ込まれた

と云ふ世にも慘虐なる情報が行はれ人をして酸鼻の念を堪へざらしめた外、其後

かつた事から生還を期し得ぬ捜査作業を斷念した旨彼地から同君の遺族近親に内報あつたとの事であつたが

兵の爲に同僚五名と共に同一の太縄に縛せられ渦巻き物凄い水中に投げ込まれた

と云ふ世にも慘虐なる情報が行はれ人をして酸鼻の念を堪へざらしめた外、其後

出身歩兵上等兵箱崎光君は戰死直前之れを目擊したと云ふ支那人によつて

當時同君は兇暴なる支那兵の爲に同僚五名と共に同一の太縄に縛せられ渦巻き物凄い水中に投げ込まれた

と云ふ世にも慘虐なる情報が行はれ人をして酸鼻の念を堪へざらしめた外、其後

大な村葬を營まれた玉川村出身歩兵上等兵箱崎光君は戰死直前之れを目擊したと云ふ支那人によつて

當時同君は兇暴なる支那兵の爲に同僚五名と共に同一の太縄に縛せられ渦巻き物凄い水中に投げ込まれた

と云ふ世にも慘虐なる情報が行はれ人をして酸鼻の念を堪へざらしめた外、其後